



Rino Kageyama

©N.Ikegami



所沢出身です！中富小学校の入学式で（一番左）



カラヤン・アカデミーではベルリン・フィルの団員としてラトルと共演！（右奥）



ミュンヘン国際コンクールで3位に入賞。パイエルン放送響と協演を果たした。



ヴァイオリニストの父（景山誠治）と大好きな大相撲観戦。ひいきの力士は高安関！

ミュージズ 美しき女神の共演 インタビュー

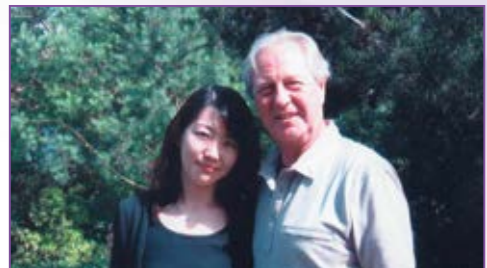
S&Rワシントン賞、日本音楽コンクール優勝、国際的な活動を繰り広げるトップ・フルーティスト上野由恵。ミュンヘン国際コンクール第3位など輝かしいキャリアを誇る、所沢が生んだ世界的ハーピスト景山梨乃。世界に羽ばたく2人の才能の共演が実現！



Yoshie Ueno



ピアノに夢中だった3歳の頃。「七五三」で祖父が撮ってくれた思い出の1枚。



尊敬するマイゼン先生には、ミュンヘンのご自宅でもレッスンを受けることができた。



フルートを始めるきっかけになったモーツァルトの協奏曲を、巨匠インバルの指揮する東京都交響楽団と協演。



同世代の「東京六人組」はお互いに刺激し合う大切な仲間！

フルートとの出会い

2歳でピアノを始め、旅先にもキーボードを持っていった即興で曲を作るくらい音楽好きでしたが、8歳のとき地元の高松でモーツァルトのフルート協奏曲を聴いて、フルートに一目惚れしてしまいました。10歳で初めて買ってもらったのが、所沢が世界に誇る名器ムラマツフルートでした。以来、ムラマツフルートとずっと一緒です。まるでやかで包み込むような音色は、身体と一体になるような感覚を覚えるほどで、私にとっては世界一の楽器です！

フルーティストへの道

フルートを始めて間もない頃、地元のコンサートで「赤とんぼ」を演奏したとき、聴いてくださった方が涙を流しながら喜んでくださいました。「音楽の持つ力」を感じた瞬間で、これがいまでも私の「演奏家」としての原点です。その後、上京して東京芸大の附属高校に入学し、東京芸大で学びました。とにかくフルート漬けの日々でしたが、世界でも超一流フルーティストであるマイゼン先生、ニコレ

上野由恵 × 「フルート」 景山梨乃 「ハープ」

ピアノではなくハープ！

父がヴァイオリニスト、母がハーピストなので、私も3歳からピアノを始めましたが、練習も、人と比べられるのも苦手。ピアノを断念し、小学3年生からハープを始めました。ハープは周りに習っている人もいないので、のんびりとできたことがとても自分に合っていました。10歳でジュニア・コンクールに優勝してからは、ハープは自分に向いているかも、という思いが強くなりました。フルートの上野由恵さんと同じで、東京芸大の附属高校を経て東京芸大に進学しましたが、上野さんはすでに活躍されていたので憧れの先輩です。

カラヤン・アカデミーでの経験

東京芸大の2年生のとき、パリへ留学して尊敬するペラン先生に師事しました。とても理論的でわかりやすく教えてくれる名教師です。そのパリ時代にベルリン・フィルのハーピストであるラングラーメ先生に出会い、「ベルリンで勉強しない？」とお誘いを受けました。ベルリンではベルリン芸術大学と、幸運にもベルリン・フィルのカラヤン・アカデミー

先生が評価してくださったことがすごく励みになりました。貴重な資料を求めて、所沢のムラマツフルートの工場に頻りに通い、工場長に親切にいただいたのも懐かしい思い出です。

日本音楽コンクールで優勝 ソリストとしての活躍

コンクールで優勝してからは、協奏曲を演奏する機会をたくさんいただきました。オケとの対話、ホールでの音の響かせ方など、レッスンでは習得できない多くのことを学ぶことができ、とても幸運だったと思います。ソロのコンサート、所沢ミュージズでもたびたび演奏させていただきました。東京六人組での室内楽などもとても刺激的ですが、景山梨乃さんとの共演も毎回とても楽しみです。葦笛や堅琴の古代から、フルートとハープの相性の良さは語り継がれています。梨乃さんはものすごい技術を持っているのに、全然それを感じさせない自然体の音楽性と穏やかなお人柄が魅力です。自分や楽器の個性よりも、作品の個性を活かしたいという私の気持ちともぴったり合う気がします。

上野由恵【フルート】
×
景山梨乃【ハープ】
デュオ・リサイタル
4月29日（月・祝）
13:30開場 14:00開演
檜峰コミュニティ会館別館
（所沢市山口5057）

全席指定 ¥1,000

◆ 曲目 ◆
ドビュッシー：亜麻色の髪の乙女
ラヴェル：ハバネラ形式の小品
イベール：間奏曲
アンドレ：ナルテクス
ボルヌ：カルメン幻想曲 ほか
※未就学児の入場はご遠慮ください。

に入ることができましたので、ベルリン・フィルの団員としてラトル、バレンボイム、プロムシテットなどの巨匠の指揮で演奏することができました。日本のジュニア・オケで活動していた頃からオケでの演奏が大好きだったので、宝物のような素晴らしい経験ができました。

オーケストラ、ソロ、室内楽

2014年に東京交響楽団の団員に採用されました。音楽監督のノットは明確な音楽的ヴィジョンがあり、素晴らしい統率力で楽団員を引っ張ってくれる父親のような存在です。この素晴らしい指揮者のもと演奏できるのはとても幸せです。残念ながらモーツァルトやベートーヴェンなど古典派の曲ではハープの出番がありませんので、オケがオフの日にはソロや室内楽など、理想的なバランスで演奏活動ができています。上野由恵さんのフルートは何より音色が美しく、テクニクも素晴らしい。音楽的にも性格的にも竹を割ったようなさっぱりとした姉御肌なので、とても共演しやすく「先輩！ ついていきます！」という感じの頼れる方です（笑）。